

卷一
四

押仲

多賀會長題字

押上一丁目仲町会広報部
編集責任者 山本 勝信
令和六年一月三十一日
第九十九号

第九十九号

令和六年一月三十一日

す。本年もよろしくお願ひします。とはいへ、新年早々に能登半島地震が発生し、多数の方が亡くなり、ご冥福をお祈りすると共に、被災した方にはお見舞い申し上げます。いち早い復旧、復興を切にお祈りいたします。昨年は関東大震災から百年ということで災害への対応について考える年ではありました。今年は年明けからこの能登半島地震により、防災意識を改めて認識した次第です。さて、昨年を振り返りますと、「ワールド・ベースボール・クラシック」(WBC) の優勝、米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手が「満票」で MVP 選出、藤井聰太棋士の八冠独占など、偉業を成し遂げた明るいニュースもありましたが、世界に目を向けると、イスラエルガザ侵攻、トルコ・シリア地震、ハワイ大規模山火事、ウクライナ戦況膠着など、悲惨な事件、事故がありました。



今年度の残りの活動といたしましては、コロナ禍で活動が停滞しておりました、墨中地区防災活動拠点会議も正常に動き始め、二月十八日には避難所開設訓練が行われます。三月一日～七日には、火災予防週間が始まりますので、さらに火災の恐ろしさを認識して注意していただけるとありがたいです。現在回覧で申し込みを促しております「区民交通傷害保険」ですが、義務化されております「東京都自転車条例」の自転車保険に対応しておりますので、お申込みの検討をお願いします。

昨年の定期総会の案内において、

「役員のなり手が少なく町会の運営が厳しく、縮小（最低限）・廃止・合併などの案が出ております。忌憚のないご意見をお寄せください」という欄を設け、「意見をいただきました。議決に反対された理由を書かれていた方もおりましたが、「町会がなくなつたら災害のあった時や区や都からのお知らせはどうなるのか?」「合併は範囲が広くなり負担が増えるのでは」といった意見も含めて、総じて「縮小しても何とか存続してほしい」という意見でした。

新年あけましておめでとうございます。

子供会では町会会館の大掃除後に、町会の細川さんのご厚意でクリスマスパーティーをすることができました。会社の地下のスペースを貸していただき、素敵なクリスマスの飾りの中クリスマスソングもかけてください、細川さんの娘さんとお孫さんも一緒にとても楽しい時間を過ごすことができました。

また、細川さんの娘さんは子供たちにクリスマスプレゼントを用意してくださいり、みんなとても喜んでいました。素敵な思い出が増えました。ありがとうございました。

今後は、三月に押上一丁目子供会さんと合同でのボーリング大会があります。毎朝一緒に登校していくもので、交流を深める良い機会になるかと思います。



クリスマスパーティーに参加した子どもたち



町長と子供会の方々

子供会では町会会館の大掃除後に、町会の細川さんのご厚意でクリスマスパーティーをすることができました。会社の地下のスペースを貸していただき、素敵なクリスマスの飾りの中クリスマスソングもかけてくだ

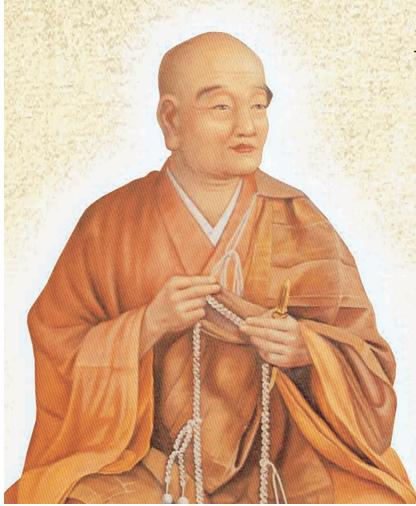
コロナ明けした令和六年一月二十一日町会会館で開催されました。押仲町会会員、子供会の役員、子供達も参加して賑やかに催されました。町会員の方が十名、子供会の方々が十一名、多賀町会長を含めた二十二名が参加しました。川松都議会議員が飛び入り参加され、公共工事について解り易く説明していただき、楽しい賀詞交歎会となりました。

〔しらとり子供会〕

賀詞交歎会

押上一丁目仲町会のホームページ：<http://www.oshinaka.com>





慈覚大師円仁像

比叡山延暦寺 H25 カレンダーより

大同三年（八〇八）、円仁が十五歳の時、広智に伴われて、比叡山延暦寺の天台宗宗祖最澄の弟子になりました。最澄の下で厳しい修行に励み勉学に勤しみ、有能な僧侶となりました。二十四歳の時、最澄に随行、関東の普及の旅に出ます。

最澄は、学問僧として抜きん出でた円仁に、後の天台宗を託し、弘仁一三年（八二二）、五六歳で入滅しました。

円仁は、宗祖最澄との約束「東北地方の巡錫」の旅は、その後、全国に及びました。円仁の由緒寺社の数は六百を超えていたといわれています。（天台宗祖大法要）

承和五年（八三八）、円仁四五歳の時、求法（注3）僧としての勅命（注4）が下り遣唐使の一員になり唐に渡り、二人を伴い足掛け一〇年の求法と巡礼の旅をしました。途

中、会昌五年（八四五）、武帝の仏教弾圧・廃仏等の危険な社会状況にも遭

遇、苦難の旅を終えて、多くの仏典・仏画・書写

承和一四年（八四七）、多くの仏典・仏画・書写

欠かさず、見聞した様子

この間、円仁は日記を

を記しました。日記は

これは玄奘三蔵が書いたものではな

【押上界隈の歴史あれこれ】

三八、墨田ゆかりの偉人 慈覚大師円仁

横井 正男

前々号の「押伸」紙で紹介した「牛嶋神社」を、平安時代初期（八六〇年）に創建した慈覚大師円仁（七九四～八六四）は、同じ頃、区役所近くの如意輪寺（吾妻橋一）（二二）も開山したと伝えられています。更に、東京（江戸）を代表する古刹「浅草寺」（創建六一八年）の、伽藍整備を行い、御前立（注1）を刻みました。その結果、それまでは寒村の寺院であつた浅草寺は、信者の層が一層厚くなり栄えました（現在では、年間三千万人が訪れると言われています）。以来、浅草寺では慈覚大師を「中興開山」と呼んでいます（浅草寺由緒）。

仏教というと天台宗宗祖「伝教大師最澄」（七六七～八二二）や真言宗開祖「弘法大師空海」（七七四～八三五）を思い浮かびますが、世界の歴史学者の間では、慈覚大師円仁を「日本仏教の興隆に最も貢献した僧侶の一人」と言わています。今回は、平安時代初期に牛島（現在の向島）両国界隈（注2）の社寺創建をはじめ隅田川沿岸で、民の安寧を祈り、巡錫（注2）

し活躍したと伝えられる慈覚大師円仁の足跡を紹介します。

円仁は延暦一三年（七九四）、今

の栃木県下都賀郡の壬生家に生ま

れました。早くに父を亡くし、母

と兄に育てられました。九歳の時、

近くの名刹大慈寺（現存、

岩舟町）の高僧広智に預けられま

した。

円仁の足跡を紹介します。

円仁は延暦一三年（七九四）、今

の栃